

神戸大学「志」特別入試（第 1 次選抜理系型受験）の概要と 入学前教育の設計

進藤 明彦, 西山 覚, 高橋 真, 吉田 健三, 杉山 浩一 (神戸大学)

神戸大学では、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価する、神戸大学「志（こころざし）」特別入試を開発し、2019 年度入試より実施してきた。初年度に比べ 2020 年度入試では、全体として志願者が約 1.2 倍、志願者の所属する学校数が約 1.3 倍と増加するなどの変化がみられた。また、書類審査では、2020 年度入試において「活動実績に関する証明書」を導入することで、活動証明書類が入手しにくいボランティア等の活動が、初年度に比べ約 1 割増加した。また、本入試合格者を対象に、大学における学修との接続を考えた独自の通信添削による教科学習と、他大学ではあまりみられない探究的学習を取り入れた入学前教育を開発し導入した。

キーワード：特別入試、神戸大学、理系、1 次選抜、入学前教育

1 導入の経緯

神戸大学では、「高大接続改革実行プラン」（文部科学省、2015）に対応するため、2015 年 6 月に「入試改革推進本部」が設置され、学力の 3 要素を測る入試への転換が示された。神戸大学における入試改革に関する検討から、大学全体で取り組む特別入試を担う部署として 2016 年 4 月に、アドミッションセンター長（兼任）と専任教員 2 名の体制からなるアドミッションセンターが設置された。

2016 年 3 月 31 日には、「高大接続システム改革会議（最終報告）」（高大接続システム改革会議、2016）が発表され、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価するため、面接に加え、調査書の活用や入学希望理由書など多様な評価方法を取り入れ、主体性・多様性・協働性を評価することが求められた。

神戸大学では、入試改革推進本部等の特別入試についての議論から、「一般入試改革に先行して特別入試を実施する」、「学力の 3 要素を多面的・総合的に評価して特色ある学生を選抜する」、「特別入試は神戸大学の入試改革を先導する位置づけとする」という方針が打ち出され、アドミッションセンターを中心に、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価する「神戸大学『志』特別入試（以下、志入試と表記）」を開発し、2019 年度志入試より実施している。

2 志特別入試の概要

2.1 出願から入学までの流れ

志入試の出願から入学までの流れを、表 1 に示す。

志入試は、大学入試センター試験の成績を利用しない特別入試で、11 月末までに最終合格発表を行うため、出願を 8 月上旬とした。第 1 次選抜の実施まで

は、アドミッションセンターが行い、第 1 次選抜の実施結果による選考および最終選抜は、各学部学科等が行っている。

表 1 志特別入試の出願から入学までの流れ

日程	内容
8 月上旬	出願
9 月中旬	第 1 次選抜
10 月上旬	第 1 次選抜合格者発表
10 月下旬	最終選抜
11 月下旬	最終合格者発表
12 月～3 月	入学前教育
4 月上旬	入学式

2.2 募集人員と志願者数

2.2.1 全体概要

募集人員と志願者数を、表 2 に示す。

2020 年度志入試は、7 学部、22 学科、専攻・コースにおいて実施された。このうち、文学部人文学科、法学部法律学科、農学部食料環境システム学科食料環境経済学コースでは、第 1 次選抜において文系型受験を実施し、それ以外の学部、学科、専攻・コースでは、第 1 次選抜において理系型受験を実施した（神戸大学アドミッションセンター、2020a）。

募集人員は、2019 年度志入試で、全体合計 48 名（理系型受験合計 40 名）から、2020 年度志入試では、医学部保健学科看護学専攻において 2 名増加し、全体合計 50 名（理系型受験合計 42 名）となった。

志願者数は、2019 年度志入試で、全体合計 116 名（理系型受験合計 70 名）となった。文系学部である文学部と法学部では、いずれも募集人員 3 名のところ

に20～24名と、多くの志願者を集めているのに対し、理系型受験実施の学部、学科、専攻・コースにおいては、国際人間科学部環境共生学科等の一部を除き、全体的に低迷し、5学科、専攻・コースにおいて志願者数が0となった。

2020年度志入試の志願者数は、全体合計138名と、約2割近く増加した。文系型受験では、志願者数の変動は見られなかったが、理系型受験では合計89名と、

約3割近い志願者増が見られた。これは実施初年度には、志入試の存在が十分周知されていなかったことによると考えている。しかしながら、2020年度志入試においても、4学科、専攻・コースにおいて、志願者数が0となった。これらはいずれも募集人員が1～2名のところであった。これらのことから、よりいっそうの広報活動が必要であると同時に募集人員枠の拡大も必要であると考えている。

表2 2020年度志入試の入試区分と募集人員・志願者数・第1次選抜合格者数・最終選抜合格者数

学部	学科	専攻・コース	募集人員 (名)	志願者数 (名)	第1次選抜 合格者数 (名)	最終選抜 合格者数 (名)
文	人文		3	20(24)	12(11)	2(3)
国際人間科	環境共生		5	17(14)	12(13)	3(3)
法	法律		3	25(20)	7(8)	3(4)
医	保健	看護学専攻	4(2)	4(8)	4(6)	3(2)
		検査技術科学専攻	2	8(2)	6(2)	2(2)
		理学療法学専攻	2	8(8)	5(8)	2(2)
		作業療法学専攻	2	5(0)	4(0)	2(0)
工	建築		2	10(3)	2(2)	2(1)
	市民工		2	0(0)	0(0)	0(0)
	電気電子工		2	3(1)	2(1)	0(1)
	機械工		2	0(2)	0(2)	0(1)
	応用化		2	2(7)	1(3)	1(3)
	情報知能工		2	4(1)	3(1)	1(1)
農	食料環境システム	生産環境工学コース	2	4(4)	3(4)	1(1)
		食料環境経済学コース	2	4(2)	3(2)	1(1)
	資源生命科	応用動物学コース	1	3(0)	3(0)	1(0)
		応用植物学コース	1	3(3)	3(3)	1(1)
	生命機能科	応用生命化学コース	1	2(5)	0(3)	0(1)
		応用機能生物学コース (環境生物学コース)	3	6(5)	6(5)	3(3)
海事科	グローバル輸送科	航海マネジメントコース	5	10(7)	6(4)	1(1)
		ロジスティクスコース	1	0(0)	0(0)	0(0)
	海洋安全システム科		1	0(0)	0(0)	0(0)
全体合計			50(48)	138(116)	82(78)	29(31)
理系型受験合計			42(40)	89(70)	60(57)	23(23)

注) 括弧内の名称および数値は、2019年度志入試のものである

2.2.2 所属学校の所在地別の志願者数（全体）

志願者の所属学校の所在地（地方区分）別の数をまとめたものを表3に示す。

2019年度志入試の志願者は、北は千葉県から南は沖縄県までの16府県で、8割以上が近畿地方からの

出願であったが、2020年度志入試では、北は北海道から南は沖縄県までの28道府県にまで広がった。近畿地方からの志願者数は変化していないことから、実施2年目になり、志入試が全国的に周知されるようになってきたと考えている。

合格者数は、2019 年度志入試では、合格者は、5 府県にわたり、近畿地方 30 名、近畿地方外では福井県 1 名と近畿地方に集中していた。2020 年度志入試では、合格者は 12 府県にわたり、近畿地方 19 名、近畿地方外では沖縄県からも 1 名、計 10 名と全体に拡がる傾向が見られた。今後の実施結果も含めて傾向を分析していきたいと考えている。

表 3 所属学校の所在地方区分別志願者数（全体）

地方区分	2019 年度入試	2020 年度入試
北海道地方	0(0)	2(0)
東北地方	0(0)	1(0)
関東地方	2(0)	2(0)
中部地方	7(1)	7(0)
近畿地方	96(30)	96(19)
中国地方	4(0)	8(5)
四国地方	3(0)	11(2)
九州地方	4(0)	11(3)

注) 数値の単位 (名) , 括弧内は合格者数を表す

2.2.3 志願者の所属学校の国公立別学校数（全体）

志願者の所属する学校の国公立別の学校数を、表 4 に示す。2019 年度志入試 79 校から、2020 年度志入試 106 校と、全体で約 3 割増加しているが、国公立別の学校数割合は、ほぼ変化しておらず現時点では運営主体による差はないと考えられる。

表 4 志願者の所属学校の国公立別学校数（全体）

	2019 年度入試	2020 年度入試
国立	2(2.5)	3(2.8)
公立	37(46.8)	49(46.2)
私立	40(50.6)	54(50.9)
計	79	106

注) 数値の単位は学校数, 括弧内は割合(%)を表す

2.2.4 所属学校の国公立別志願者数（全体）

志願者の所属学校の国公立別志願者数（全体）を、表 5 に示す。2019 年度志入試から、国公立別の志願者の割合は大きく変化していなかった。

表には示していないが、合格者数の割合は、公立高校で、38.7%→58.6%、私立学校で、51.6%→34.5%と、公立学校で増え、私立学校で減少していた。この変化についても、今後の動向に注目していきたい。

表 5 所属学校の国公立別志願者数（全体）

	2019 年度入試	2020 年度入試
国立	8(6.9)	5(3.6)
公立	46(39.7)	57(41.3)
私立	62(53.4)	76(55.1)
計	116	138

注) 数値の単位は志願者数, 括弧内は割合(%)を表す

2.2.5 SSH, SGH 指定校における志願者数（全体）

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校およびスーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校に所属する志願者数（全体）を表 6 に示す。

SGH 指定校 18.1%→6.5%、SSH+SGH 指定校 37.9%→25.4%と減少しているが、これは 2014 年度から始まった SGH の制度において新規指定が終わり、2019 年度には、初年度指定校の 56 校が指定終了となり全体数が減少したことによると考えられる。

表には示していないが、2019 年度志入試における、SSH および SGH 校所属の志願者の合格割合は、38.6%に対して、非指定校所属の志願者の合格割合は 14.1%、2020 年度志入試における、SSH および SGH 校所属の志願者の合格割合は、40.0%に対して、非指定校所属の志願者の合格割合は 13.5%と、いずれも SSH および SGH 指定校所属の志願者の合格割合の方が高い傾向にあった。

この傾向は、SSH および SGH 指定校では、一定期間の課題研究に取り組んでいることが関係している可能性も考えられる。2019 年度から全ての高等学校において「総合的な探究の時間」が設定され、探究的学習が実施されるため、探究的学習を経験した非指定校の志願者の合格率について、引き続き注目していきたい。

表 6 SSH, SGH 指定校に所属する志願者数（全体）

	2019 年度入試	2020 年度入試
SSH	28(24.1)	27(19.6)
SGH	21(18.1)	9(6.5)
SSH・SGH	5(4.3)	1(0.7)
SSH, SGH 計	44(37.9)	35(25.4)
非 SSH,SGH	72(62.1)	103(74.6)

注) 数値の単位 (名) , 括弧内は全志願者に対する割合(%)を表す

3 第 1 次選抜（理系型受験）の内容

第 1 次選抜は、アドミッションセンターが担当し、

書類審査、模擬講義・レポート、総合問題に基づいて行われる。

3.1 書類審査

提出する書類は、高等学校側が用意するものとして、調査書、学業等評価書の2点と、志願者が用意するものとして、活動実績報告書、志望理由書の2点がある。出願はインターネット出願であるが、調査書と学業等評価書は、高等学校側が紙媒体として作成し厳封のうえ郵送し、活動実績報告書と志望理由書は、志願者がデジタルデータとしてインターネット出願のシステムから提出することとしている。

3.1.1 学業等評価書

この書類の書式は、神戸大学のWEBサイト経由で、PDFとワードのファイルを提供していた。書類への記載方法は、手書きまたはPC等による編集のどちらも認めるが、いずれの場合も紙媒体の書類を郵送・提出することとしていた。

記載内容は、「志望学部・学科・コース・専攻のアドミッションポリシー及び求める学生像からみて、学業等において志願者に関する特筆すべき事項について具体的根拠を示し簡潔に記入」とし、記入枠と11ポイントのフォントサイズの指定のみで文字数の指定はしていなかった。

学業等評価書は、新調査書への移行に伴い2021年度入試から廃止している。

3.1.2 活動報告書

神戸大学のWEBサイト経由で、記入可能なPDFファイルとして提供している（神戸大学アドミッションセンター、2020b）。一般に無料で提供されているPDFリーダーでファイルを開き記入・保存することが可能である。記入する内容は、以下の3つの項目からなる。

1: 「これまでの活動実績のうち、主なものを5つ以内で記入」。図1に、その書式の一部を示す。

活動実績については、その活動を証明する資料を提出できるもののみとし（生徒会活動、部活動等は調査書による証明も可とした）、インターネット出願時にシステムから、証明する資料をPDFファイルとしてアップロードして提出する。

2: 「活動実績のうち、特にアピールしたいものを1つ選び、その活動を通して得られたことも含めて、具体的に記入（400字以内）」

3: 「主体性をもって多様な人々と協働して活動した

記録を具体的に記入（300字以内）」

活動報告書			
【1】これまでの活動実績のうち、主なものを5つ以内で記入してください。			
名称 (選活動、発表、資格、受賞など)	活動の期間 (活動の開始年度、開始月、受賞年など)	活動の種類 どちらかを選択	添付資料 資料 No.
		・授業、課外活動の一環 ・学校外の自主的な活動	
○ 活動実績には、その活動を証明する資料が添付できるものについて記入してください。活動を証明する資料として「活動実績に関する証明書」を利用する場合は、添付資料欄は「調査書参照」を選んでください。			

図1 活動報告書の書式（一部分）

活動実績の記入に関して志願者の書類作成補助のため、活動実績を19に分類し、計125項目の記入例を示した「神戸大学『志』特別入試（AO入試）出願時における提出書類作成の手引き（以下、手引き）」を作成し、神戸大学のWEBサイト経由で志願者に示した（神戸大学アドミッションセンター、2020c）。その一部抜粋を図2に示す。

○ 科学・技術等に関する研究発表の例

【記載項目】正式名称、活動の期間、活動の種類（選択）、発表タイトル、主催団体名、予選（選抜、査読）の有無、発表会の規模（発表会の継続年数、主な対象地域、発表数（応募数）、発表者数等）、参加形態（個人研究、共同研究（人数）、口頭発表、ポスター発表、紙面発表等）、受賞の有無（賞の名称、賞のレベル（最優秀賞に相当等）、同じ賞の本数等）、上位の大会等

名称 (選活動、発表、資格、受賞など)	活動の期間 (活動の開始年度、開始月、受賞年など)	活動の種類 どちらかを選択	添付資料 資料 No.
第○回日本○○科学賞○○黒地方審査会 協賛	受賞：○年○月 研究期間：○年○月～○月	学校外の自主的な活動	No.○
○ 所属学校における2年次の「総合的な学習の時間」において取り組んだ研究内容を、第○回日本○○科学賞○○黒地方審査会に申請した。その結果、「○○○○（研究タイトル）」（4人の共同研究）は、審査書（56本）により奨励賞（参加賞相当）となるが、中央審査会には選ばれなかった。			
名称 (選活動、発表、資格、受賞など)	活動の期間 (活動の開始年度、開始月、受賞年など)	活動の種類 どちらかを選択	添付資料 資料 No.
第○回全国高等学校○○文化祭 自然 科学部門 ポスター発表部門/生物部 化学班	発表：○年○月 在籍：○年度～○年度	学校外の自主的な活動	No.○
○ 黒教育委員会主催、県内課題研究会発表会において、生物部化学班（4名）として、共同研究「○○○○（研究タイトル）」を口頭発表（16本）し、優秀賞（2位相当、3本）を受賞し、上記大会のポスター発表部門（120本）でポスター発表を行った。/1～3年次、生物部在籍。（部活動の種類については選抜は調査書による）			

図2 「出願時における提出書類作成の手引き」
活動実績の記入例（一部抜粋）

この「手引き」は、志願者の主体的活動のうち、評価の対象となる活動の種類や出願時に必要な情報が何かを示すことにもつながると考えている。このような詳細な記入例を多く示した「手引き」は他大学には見られず、今後の志願者の主体的活動評価を重視した選抜の拡大において参考になると考えている。

活動実績の志願者ごとの記入数の割合を図3に示す。

2019年度志入試と2020年度志入試で大きな差はなく、約8割の志願者が4項目以上を記入していた。

活動実績の項目数は、多すぎると高等学校において必要以上に学校内外の活動を推奨することにつながり、本来の学習活動に支障をきたすことにつながりかねない。この2回の実施結果から考えて、志願者の評価において、5項目という活動実績の上限は、妥当な数であると考えている。

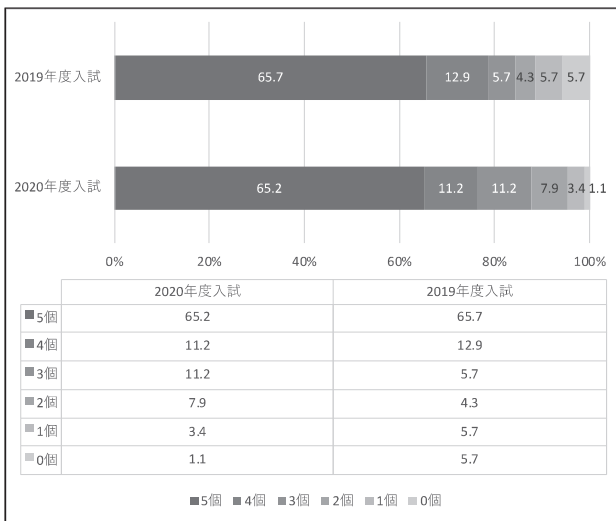


図3 活動報告5項目の記入数（理系型受験者）

活動実績に関する証明書

学校名	志願者氏名	卒業年月
		年 月 卒業・卒業見込

活動実績の名称

※ 裏面の「証明書利用上の注意」に従って記載してください。
上記の活動実績は、志願者本人が取り組んだ活動であり、いずれも調査書に記載されていることを証明する。
年 月 日

学 校 名	校 長 名	印

図4 「活動実績に関する証明書」の書式

2019年度志入試実施の課題として、ボランティア等の一部の活動に、証明する資料の入手が困難なものがあることや提出される調査書を志願者が閲覧できず、どのような活動が記載されているか分からずに出願しなければならないことが明らかになった。この解決策として、2020年度志入試では、図4に示す「活動実績に関する証明書（以下、実績証明書）」を導入した（神戸大学アドミッションセンター，2020d）。

この「実績証明書」は、活動を証明する資料が提出できない活動等について、志願者が学校側に示し、それを調査書に記載することで、その活動を証明することを可能とした。また、この「実績証明書」は志願者が閲覧可能であり、自分の活動が調査書に記載されていることを把握した上で、出願することも可能とした。

図5に示した活動実績の種類とその割合では、2019年度志入試に比べ、2020年度志入試で「ボランティア」、「その他の活動」の割合が増加していることが分かる。これは「実績証明書」の導入により、ボランティア等の証明資料の入手が困難な活動の記載が増えたものと考えている。

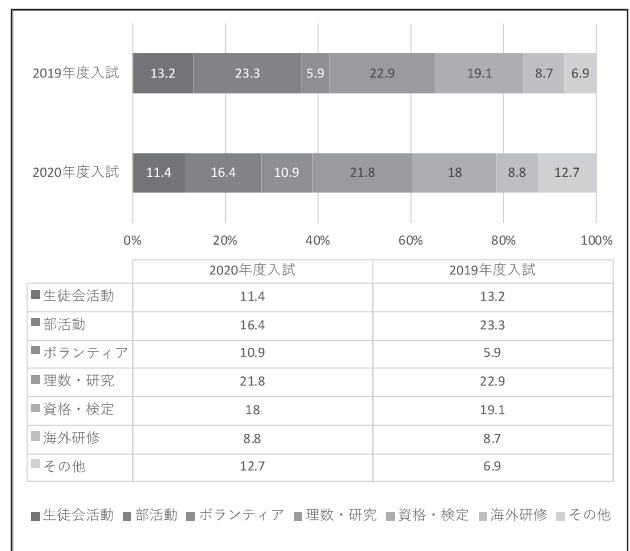


図5 活動報告5項目における活動実績の種類（理系型受験者）

また、2021年度入試から導入される新書式の調査書では記載内容の増加が予想され、該当する活動記録を探す時間と労力が增大することが考えられる。この「実績証明書」による活動実績証明の確認のしくみを、各大学が共有することで、大学側と受験者側の双方の負担軽減につながると考えている。

3.1.3 志望理由書

記入する内容は、以下の2つの項目からなる。

- 1：「学部・学科・コース・専攻に関心を持った理由を記入（800字）」
- 2：「大学入学後に学びたいことや大学卒業後の進路について記入（800字）」

大学入学前と大学入学後に分けることで、志願者

の志望理由を明確化するとともに、最終選抜における面接でも活用している（神戸大学アドミッションセンター，2020b）。

3.2 模擬講義・レポート（120分）

文系型受験用と理系型受験用の2種類の模擬講義・レポートを用意している。45分程度の模擬講義のあと、講義内容に関連した課題に取り組む。

理系型受験の模擬講義・レポートでは、大学における学修につながる、探究的学習に取り組む上で参考となる講義を行い、探究的学習に関連した課題として、知識を直接問う出題ではなく、中学校理科・数学や高等学校の理科・数学の基礎科目レベルの知識を活用して取り組む課題を課している。

2020年度志入試の模擬講義・レポートについては、出題の意図とともに、神戸大学のWEBサイトに公開している（神戸大学アドミッションセンター，2019）。

3.3 総合問題（120分+120分）

文系型受験用と理系型受験用の2種類の総合問題を用意している。

理系型受験の総合問題では、主に英語と数学を含む総合問題120分、主に理科の化学、物理、生物を含む総合問題120分を課している。

理系型受験の総合問題では、従来からのペーパー試験で主に測ってきた知識・理解・思考力を問う出題を課し、模擬講義・レポートの課題と出題内容を分けている。

9月中旬の段階では、中高一貫校等とそうでない高等学校では授業進度に差があるため、模擬試験の業者が示す9月実施の模擬試験の出題範囲を参考に題出し、範囲外からの出題については知識を問わず、分析力・思考力を問うような配慮を行っている。

また、多くの理系の受験生は、高等学校の理科において、物理と生物のどちらかを選択しており、選択科目の違いにより有利不利が生じないように、物理分野を主とする大問と生物分野を主とする大問を出題し、受験時に選択できるようにして公平性を担保している（神戸大学アドミッションセンター，2019）。

4 入学前教育

志入試では、早期（11月末）に合格が決まるため、一般入試合格者との間に基礎学力差が生じることが懸念されている。そのため入学までの約4ヶ月間の学習習慣の維持と大学における学修との接続を目的として

入学前教育を実施している。

入学前教育では、2回のスクーリングと探究的学習、添削指導による教科学習を課している。

4.1 内容と期間

入学前教育の内容を、以下に示す。

1：スクーリング（第1回：12月下旬，第2回：2月下旬）

遠方からの合格者もいるため、2回に限定してスクーリングを行っている。

第1回スクーリングでは、入学前教育に関するガイダンスを行っている。その中で、本学の学生が講義で利用するLMS（Learning Management System：学習管理システム）神戸大学BEEFの使い方講習を行い、入学前教育の教材の配付やレポート等の提出をデジタルデータベースで行っている。

また、志入試合格者間の入学後のつながりを持たせることと論理的表現力の育成を兼ねた、自己紹介を題材とした「情報の構造化と表現研修」および文理共通となる「英語学習研修」を行っている。

第2回スクーリングでは、入学前教育期間中に取り組んだ探究的学習の成果を発表する探究的学習成果発表会と、文理共通して必要となる英語力に関する学力診断テストを行っている。

探究的学習成果発表会は、ポスター発表形式で行い、各学部学科コース・専攻の教員だけでなく受講生にも積極的な質問を促すことで、質疑応答を通じた論理的思考力と論理的表現力の育成を図っている。

2：大学入試センター試験の学習レポート（合格発表後，大学入試センター試験まで）

所属学校の他の生徒と一緒に高等学校から課される教材を用い5教科の学習に取り組ませ、学習内容と学習量をレポートにまとめて提出させる。文系理系を問わず5教科の学習に取り組ませることで、広く知識・理解を習得させることを目的としている。

また、推薦やAO入試で早い時期に合格が決まった生徒が、高等学校における学習を疎かにし、まだ合格が決まっていない生徒に影響を及ぼすことを懸念して、推薦やAO入試への出願に消極的な進路指導を行う高等学校もあり、大学入試センター試験に向けて同じ学習に取り組ませることで、周囲の生徒や学校の先生への配慮を行う事で、受験生の多様な入試制度の選択機会の確保にも配慮している。

3：通信添削による教科学習（大学入試センター試験後，3月上旬まで）

入学後に必要とされる各教科における基礎学力を習

得させるため、学習範囲を 2 週間×3 期に分けて示し、各期の最後に課題レポートの提出と確認テストを行い、アドミッションセンターの教員が中心となって添削指導を行っている。

文系の受講生は主に国語・英語・数学、理系の受講生は主に英語・数学・理科の教科学習を、市販の問題集、参考書等を用いて取り組ませている。

理科は 2 科目の教科学習を課しているが、理科の科目選択は、各学部、学科、コース・専攻ごとに大学における学修に必要な科目を指定している。高等学校における理科の科目選択は受講生により異なるため、履修・未履修の状況に応じて教材を変えて実施している。

4：課題研究等の探究的学習（合格発表後、第 2 回スクーリングまで）

高等学校における課題研究の継続研究や、新たなテーマを設定し探究的学習に取り組ませている。

課題研究等の経験がない受講生には、研究課題を提示するのではなく、それぞれの受講生の興味関心に応じた研究課題をアドミッションセンター教員が導く形で設定させ取り組ませている。また、BEEF のメッセージ機能を利用して、研究の進め方等に関する指導を行っている。

探究的学習等の成果は、第 2 回スクーリング時にポスター発表形式で各自の発表を行っている。

発表用ポスターの作成は、模造紙に手書き、大判プリンターで印刷、パワーポイントのスライド等を A4 用紙に印刷し並べて貼るなど、発表者の IT 環境やスキルに合わせた形で取り組めるよう配慮している。

発表に関しては、発表原稿を読むことなく、自分の言葉で説明するよう指示している。高等学校の研究発表会では、原稿を読みながら発表する様子も見られるが、この 2 年間の実施においては、全員が原稿を読むことなく、聴衆に合わせて自分の言葉で説明をすることができている。

5：その他（合格発表後、3 月上旬まで）

以上の取り組みと並行して、卒業論文・修士論文発表会への参加や、高校生対象の研究発表会やシンポジウム等を紹介し、積極的な参加を呼びかけている。また、3 月には、教科学習を設定せず、短期海外研修等、各自の自主的な学修の取り組みを推奨している。

5 終わりに

本稿は、今後、総合型選抜や入学前教育を立ち上げる大学等の参考となるよう、中間発表として概要を報告した。

志入試は、まだ 2 回の実施のみで、実施データの分

析は、これからのデータ蓄積により傾向が明らかになると考えている。

志願者の主体的活動の評価において、活動実績の証明は、資料を準備する志願者とそれを確認する大学側の双方に多大な労力が必要となる。本学ではその解決策の 1 つとして、書類審査における主体的活動の評価における新しいしくみとして「実績証明書」と「手引き」を活用している。

また志入試では、課題研究に熱心に取り組んできた志願者も多く、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）で新たに導入された必履修の「総合的な探究の時間」（文部科学省、2018）で取り組んだ探究的学習の経験を大学の学修につなげるためにも、入学前教育において課題研究の継続研究等の探究的学習を取り入れている。

これらの取り組みは、まだあまり他大学では見られず、総合型選抜や入学前教育を実施している大学や、今後立ち上げを検討している大学の参考になると考えている。

参考文献

神戸大学アドミッションセンター（2019）. 「2020年度『志』特別入試第1次選抜入試問題」

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/admc-info/exam.html>（2021年1月5日）

神戸大学アドミッションセンター（2020a）. 「令和3年度神戸大学『志』特別選抜学生募集要項（総合型選抜）」

http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/wp-content/uploads/2020/07/2021kokorozashi_bosuyoukou_0717_3.pdf（2021年1月5日）

神戸大学アドミッションセンター（2020b）. 「活動報告書/志望理由書」

http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/wp-content/uploads/2020/07/2021sibouriyuu-katsudouhoukoku_win.pdf（2021年1月5日）

神戸大学アドミッションセンター（2020c）. 「令和3年度神戸大学『志』特別選抜（総合型選抜入試）出願時における提出書類作成の手引き」

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/wp-content/uploads/2020/07/2021tokubetsu-tebiki-2.pdf>（2021年1月5日）

神戸大学アドミッションセンター（2020d）. 「活動実績に関する証明書」

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/wp-content/uploads/2020/07/2021katsudouzisseki.docx>（2021年1月5日）

高大接続システム改革会議（2016）. 「高大接続システム改革会議『最終報告』（平成28年3月31日）」

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf（2021年1月5日）

文部科学省(2015). 「高大接続改革実行プラン（平成27年1月16日）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/sonota/_icsFiles/afieldfile/2015/01/23/1354545.pdf（2021年1月5日）

文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf（2021年1月5日）